



令和7年 トピック展示解説シート 作成：吉野歴史資料館 展示期間：令和7年3月～11月

2025 年は中先代の乱がおこって 690 年になります。近年注目があつまるこの乱の中心人物、北条時行ですが、『太平記』によると吉野を訪れていたようです。関係する記述をご紹介します。

○中先代の乱（一三三五年）

鎌倉幕府がたおれて立場を失った一部の公家が、建武の新政に反旗を翻します。これに応じ、北条時行（この頃ら才？）が中先代の乱をおこしました。この乱は足利尊氏に制圧されますが、その後、尊氏が後醍醐天皇に反意を示し、時代は南北朝時代へ向かって流れていきます。

なおこの際、鎌倉で幽閉されていた護良親王が足利軍に殺されています。護良は鎌倉幕府討幕に尽力し、吉野山などで蜂起した人物でした。

○後醍醐天皇に帰順の使者を送り、北畠顕家に合流（一三三七年・『太平記』巻19による）

中先代の乱跡、北条時行は寺々を転々とし、吉野の後醍醐天皇の下へ使者を送りました。使者が伝えたのは、主に次の3点です。

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| ① 後醍醐天皇を恨んでいない | ② 足利尊氏討伐を認めてほしい |
| ③ 朝敵とされている北条家が味方につくことを認めてほしい | |

これを受け、後醍醐天皇は時行が南朝方につくことを認めました。

北条時行は、奥州から京都に向かう北畠顕家・義良親王・結城宗宏らと合流し、京を目指します。順調に進軍し、青野原（大垣市付近）・伊勢と進んだ顕家でしたが、般若坂（奈良市）で北朝軍に敗北。義良親王を吉野に送り、自身は河内へ向かって抗戦を続けました。なおこの時、時行が河内と吉野のどちらへ向かったかはよくわかりません。

○吉野にて後醍醐天皇より拝命（一三三八年・『太平記』巻20による）

北畠顕家が討たれた後、吉野で結城宗宏が奥州の力を再結集して京を攻める提案をします。この案に賛同した後醍醐天皇は、義良親王・北畠顕信・結城宗宏らを奥州に向かわせ、北条時行・新田義興に関東八か国を味方にするよう命じます。この文章を読むかぎり、どうやら北条時行は吉野を訪れていたようです。

【北条時行が吉野に使者を送り、天皇に奏上した事】

亡親高時法師、臣タル道ヲ辨ヘズシテ、遂ニ
滅亡ヲ勅勅ノ下ニ得タリキ。然トイヘ共、天誅
ノ理ニ當ル故ヲ存ズルニ依テ、時行一塵モ君ヲ
恨中處ヲ存候ハズ。元弘ニ義貞ハ関東ヲ滅シ、
尊氏ハ六波羅ヲ攻落ス。彼兩人何モ勅命ニ依テ、
征罰ヲ事トシ候シ間、憤ヲ公儀ニ忘レ候シ處ニ、
尊氏忽ニ朝敵トナリシカバ、威ヲ縮命ノ下ニ假
テ、世ヲ叛逆ノ中ニ奪ントケル心中、事已ニ
露顯シ候歟。

抑尊氏方其人タル事偏ニ當家優如ノ厚恩ニ
依候キ。然ニ恩ヲ荷テ恩ヲ忘レ、天ヲ戴テ天ヲ
乖ケリ。其大逆無道ノ甚キ事、世ノ惡ム所人ノ
指サス所也。是ヲ以當家ノ氏族等、悉ク他ニ
取ラズ。惟尊氏・直義等ガ為ニ、其恨ヲ歎ン事
ヲ存ズ。

天鑒明ニ下情ヲ照サレバ、枉テ勅免ヲ蒙テ、
朝敵誅罰ノ計略ヲ廻スベキ由、諭旨ヲ成下レバ、
宜ク官軍ノ義戰ヲ扶ケ、皇統ノ大化ヲ仰申ベキ
ニテ候。夫不義ノ父ヲ誅セラレテ、忠功ノ子召
仕ハル・例アリ。異國ニハ趙盾、我朝ニハ義朝、
其外泛々タルタグヒ、勝計スベカラズ。用捨無
偏、弛張有時、明王ノ撰士徳也。豈既往ノ罪ヲ
以テ、當然ノ理ヲ棄ラレ候ハンヤ。

(出典は『太平記』巻十九)

亡き父・北条高時は、天皇の臣下であることをわき
まえず、とうとう滅亡の勅命を受けることとなりまし
た。だからといって、時行は父に天誅が下った理由は
当然と思っており、少しも後醍醐天皇のことを恨めし
く思っておりません。元弘2年に新田義貞は関東を滅
ぼし、足利尊氏は六波羅探題を攻め落としました。こ
の両名はどちらも勅命によって北条に罰を下しまし
た。このことへの憤りは公儀ですので気にしていませ
ん。ですが、足利尊氏はたちまち朝敵となり、天皇の
命の下に勢力を手にし、反逆をおこして天下を奪おう
としている事、すでに、明白となりました。

そもそも、足利尊氏が現在の地位にあるのは、ひと
えに北条家の手厚い恩によるものです。しかし尊氏は、
北条から恩を受けながらその恩を忘れ、天皇を君主と
しながらそのご意志に背きました。その大逆無道な
あり方のひどさに、世の人は復る指をさしています。こ
のため、北条の一族は皆、足利以外を敵とはいはしま
せん。ただ尊氏・直義への怨みをはらしたく思います。

事情をお酌み取り頂き、どうか勅命を賜りまして、
敵を罰する計略を巡らすべきとのご命令をいただ
ければ、天皇の義軍をたすけ、皇統の限りない徳を仰ぎ
たく思います。不義を働いた父を罰し、功績をあげて
主君に尽くす子を臣下とした事例は、過去にあります。
中国ですと晋の時代の趙盾、日本ですと源義朝がおり、
他にも数え切れない類例があります。臣下を登用した
り、免職したりする時は偏見を用いず、緩急時に応じ
て臣下を選ぶことが、賢明なる王の徳です。どうして
過去の罪で将来の正しい道理をお捨てになりましょ
うか。

【大意】

展示物	所蔵
逃げ上手の若君	マンガ・1・10・11・13巻
フィギュア	北条時行

太平記	図書・下巻	館蔵
大塔宮吉野城	図書	館蔵
新約太平記を読む	図書・第3巻	個人

【参考文献】

- 水野 大樹 2017『南北朝動乱 太平記の時代がすぐよくわかる』実業之日本社
鈴木 由美 2021『中先代の乱 北条時行、鎌倉幕府再興の夢』中公新書
桜井 彦 2021『信濃国の南北朝内乱』吉川弘文館